

離床センサー 現場レポート！

VOL.18

Nov.2010

「離床センサーをお使いの現場から、様々な工夫をご紹介します！」

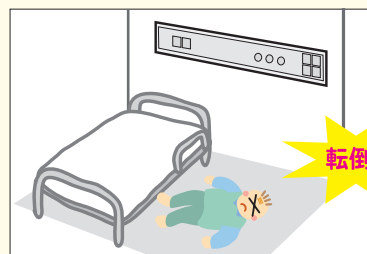
入院している患者様ではなく、外来患者様への転倒・転落対策として、
外来回復室にセンサーを導入した静岡県・S病院様の事例をご紹介します。

静岡県・S病院様

ご使用機種：ベッドコール・コードレス（BC-R）

課題

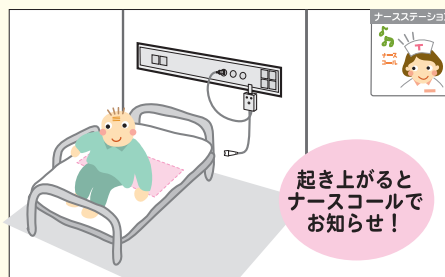
外来検査の回復室において、せん妄やふらつきによる転倒事故が発生していた。



対策

外来検査の患者様は覚醒まで回復室のベッドで待機し、離床時にはナースコールするよう指導しているが、患者様判断で離床してしまう事が多い。そこで、足が床に着いてしまう前＝より早い段階で離床行動をキャッチできるよう、起き上がりを知らせる『ベッドコール』を導入することにした。

* ベッドコールは柔らかい素材で、シーツとマットレスの間に設置することから、気付かれにくいセンサーになります。また、今回はセンサーから全くケーブルの出ていないコードレスタイプを導入されましたので、よりその効果は高く出ました。



効果

ベッドから降りる前に報知するので、着床前のタイミングで介助ができるようになり、転倒・転落もなくなった。

* ナースコールを押していないのに、スタッフが駆けつけることを不自然に思われないう、
「回復室のナースコール鳴動時は音声で対応せず、足を運ぶこと」と対応が統一されているそうです。